



## リージョンの設定

リージョンの設定では、リージョン内または既存のリージョン間で、オーディオ コールとビデオ コールに使用される帯域幅を指定します。

- オーディオ コードブックによって、圧縮のタイプ、およびオーディオ コールあたりの使用帯域幅の最大値が決まります。
- ビデオ コールの帯域幅は、オーディオ帯域幅およびビデオ帯域幅の合計で構成されますが、オーバーヘッドは含まれません。



(注)

Cisco CallManager で処理されるすべてのコールには、デフォルトのオーディオ コードブック G.711 が指定されています。デフォルトのオーディオ コードブックだけを使用する場合は、リージョンを使用する必要はありません。詳細については、[P.7-10](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。



(注)

Cisco CallManager では、最大 500 のリージョンを追加できます。

リージョンを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの設定 \(P.7-4\)](#)
- [関連項目 \(P.7-10\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.7-9\)](#)

リージョンの設定とオーディオ コードブックの選択の詳細については、『*Cisco CallManager システムガイド*』の「[リージョン](#)」を参照してください。

## リージョンの検索

ネットワーク内にはいくつかのリージョンが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定のリージョンを見つけることができます。リージョンを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、検索/リストの検索設定がクライアントマシンの cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合や、ブラウザを閉じてから再び新しくブラウザウィンドウを開いた場合でも、検索に変更を加えない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Region の順に選択します。

Find and List Regions ウィンドウが表示されます。ドロップダウンリストボックスを使用して、リージョンを名前で検索します。

**ステップ 2** Find Regions ウィンドウのドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- is exactly (完全一致)
- ends with (後方一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



ヒント

データベースに登録されているリージョンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたリージョンのリストが、名前別に表示されます。

Find and List Regions ウィンドウでは、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

該当するリージョンの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Regions ウィンドウから複数のリージョンを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのリージョンを削除できます。

**ステップ4** レコードのリストから、検索条件と一致するリージョン名をクリックします。

選択したリージョンがウィンドウに表示されます。

---

#### 追加情報

P.7-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## リージョンの設定

リージョンを追加または更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

どのリージョンについても、他のリージョン内にそのリージョンとの関連付けが存在しています。このため、リージョンの追加はマトリクス（行列）のような形態で発生します。たとえば、リージョン A、B、および C を追加すると、次に示すように、リージョン A、リージョン B、およびリージョン C を列および行とするマトリクスが作成されます。

	リージョン A	リージョン B	リージョン C
リージョン A			
リージョン B			
リージョン C			

20 のリージョンを割り当てると、データベースは 400 のエン트리（20 x 20）を追加します。多数のリージョンを割り当てると、パフォーマンスがいくらか制限されます。



(注) Cisco CallManager では、最大 500 のリージョンを追加できます。

### デフォルト値の設定

リージョン エントリには、オーディオコーデックとビデオ コール帯域幅の 2 つの値が保持されます。

- オーディオ コーデック：同じリージョン内で使用されるオーディオ コーデックの値を定義します。また、リージョン間で使用されるオーディオ コーデックの値も定義します。
- ビデオ コール帯域幅：同じリージョン内で使用されるビデオ コール帯域幅の値を定義します。また、リージョン間で使用されるビデオ コール帯域幅の値も定義します。



ヒント

オーディオ コーデックとビデオ コール帯域幅の値を両方ともデフォルト値を使用するように設定すると、リソースがさらに効率的に使用されるようになり、パフォーマンスが最適化されます。



(注) リージョンは、リージョン内で使用されるデフォルト値（推奨デフォルト値は G.711）、およびリージョン間で使用されるデフォルト値（推奨デフォルト値は G.729）を保持しています。

リージョン内で使用されるデフォルト値は、Cisco CallManager Administration の Service Parameters ウィンドウ（System > Service Parameters）で設定します。

1. System > Service Parameters の順に選択します。
2. Server ドロップダウン リストボックスから、設定する Cisco CallManager サーバを選択します。
3. Service ドロップダウン リストボックスから、サービスとして Cisco CallManager (Active) を選択します。

4. Cisco CallManager Service Parameters Configuration ウィンドウが表示されます。
5. **Clusterwide Parameters (System - Location and Region)** まで下方方向にスクロールして、このセクションのパラメータを設定します。
6. ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Save** アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている **Save** ボタンをクリックします。

リージョンを追加または更新する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** System > Region の順に選択します。

Region Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 新しいリージョンを追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、**ステップ 3**に進みます。
- 既存のリージョンを更新するには、対象となるリージョンを見つけて (**P.7-2**の「**リージョンの検索**」を参照)、**ステップ 3**に進みます。



**(注)** Cisco CallManager は、リージョン名の変更後にデバイスをリセットするように通知します。

**ステップ 3** Region Name フィールドに、リージョンに割り当てる名前を入力します。

**ステップ 4** 新しいリージョンをデータベースに保存するには、ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Save** アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている **Save** ボタンをクリックします。

**ステップ 5** このリージョン内で使用するデフォルト コーデックを設定するには、Regions ウィンドウ ペインにあるリージョン名をクリックして選択します。

- a. Audio Codec ドロップダウン リスト ボックスから、このリージョン内で使用するデフォルトのオーディオ コーデック値を選択します。

オーディオ コーデックによって、圧縮のタイプ、およびこれらのコールに割り当てられる帯域幅の最大値が決まります。使用可能なコーデック タイプおよび帯域幅のサマリーについては、**表 7-2**を参照してください。

- b. Video Call Bandwidth 列で、適切なオプション ボタンをクリックしてデフォルト値を設定し、このリージョン内のビデオ コールに使用するビデオ帯域幅を指定します。

None を指定した場合、ビデオ コールは許可されません。



**(注)** スケーラビリティを向上させるには、Cisco CallManager Administration の Service Parameters Configuration ウィンドウで、オーディオコーデックとビデオ コール帯域幅の両方の値についてデフォルト値を適切に設定し、次に、Cisco CallManager Administration の Region Configuration ウィンドウで Default 設定を選択することをお勧めします。

**ステップ6** このリージョンと他のリージョンの間で使用するデフォルト コーデックを設定するには、Regions ウィンドウ ペインにある他のリージョン名（このリージョン以外）をクリックして選択します。

- a. Audio Codec ドロップダウン リスト ボックスから、このリージョンと選択したリージョンの間で使用するデフォルトのオーディオ コーデック 値を選択します。

オーディオ コーデックによって、圧縮のタイプ、およびこれらのコールに割り当てられる帯域幅の最大値が決まります。使用可能なコーデック タイプおよび帯域幅のサマリーについては、表 7-2 を参照してください。

- b. Video Call Bandwidth 列で、適切なオプション ボタンをクリックしてデフォルト値を設定し、このリージョンと選択したリージョンの間でビデオ コールに使用するビデオ帯域幅を指定します。

None を指定した場合、このリージョンと指定されたリージョンの間ではビデオ コールが許可されません。



(注) スケーラビリティを向上させるには、Cisco CallManager Administration の Service Parameters Configuration ウィンドウで、オーディオ コーデックとビデオ コール帯域幅の両方の値についてデフォルト値を適切に設定し、次に、Cisco CallManager Administration の Region Configuration ウィンドウで Default 設定を選択することをお勧めします。

**ステップ7** 新しいリージョンをデータベースに保存するには、ウィンドウ右上のツールバーに表示されている Save アイコンをクリックします。または、ウィンドウの一番下に表示されている Save ボタンをクリックします。



#### ヒント

Region Configuration ウィンドウに、Items per page ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数（25、50、100、150、200、または 250 の設定済みリージョン）を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco CallManager の性能が低下する可能性があります。

#### 次の手順

データベースに新しいリージョンを追加した後、そのリージョンを使用して、デバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられたデバイス プールからリージョンの設定値を取得します。デバイス プールの設定については、P.9-4 の「デバイス プールの設定」を参照してください。


#### 追加情報

P.7-10 の「関連項目」を参照してください。

## リージョンの設定値

表 7-1 では、リージョンに対して指定することができるオーディオコーデック、およびビデオ コール帯域幅の設定値をまとめています。関連する手順については、P.7-10 の「関連項目」を参照してください。

表 7-1 リージョンの設定値

フィールド	説明
<b>リージョン情報</b>	
Name	このリージョンの一意な名前を入力します。この名前には、最長 30 文字まで指定できます。文字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、ブランク、および下線を指定できます。   <b>(注)</b> Cisco CallManager は、リージョン名の変更後にデバイスをリセットするように通知します。
<b>リージョン間の関係</b>	
<b>他のリージョンとの関係の変更</b>	
Regions	この列のエントリは、Default リージョン、設定しているリージョン、およびその他すべてのリージョンを含む、すべての既存リージョンを指定します。
Audio Codec	Regions ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、対応する値をこの列のドロップダウン リスト ボックスから選択して、このリージョン内、およびこのリージョンと指定したリージョンとの間でコールに使用するオーディオ コーデックを設定します。デフォルト設定を選択するには、Defaults オプション ボタンをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager Administration の Service Parameters Configuration ウィンドウで設定した、Default 設定値を選択することをお勧めします。P.7-4 の「デフォルト値の設定」を参照してください。</li> <li>• リモート サイトの配置の大部分で帯域幅が制限されるため、新規リージョンと既存リージョン間で推奨されるデフォルトのコーデックの設定値、G.729 を使用してください。</li> </ul>
Video Call Bandwidth	Regions ウィンドウ ペインで指定したリージョンごとに、この列の次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default : デフォルト値を使用するには、このボタンをクリックします。デフォルト値には、Service Parameters Configuration ウィンドウでデフォルト値を別の値に設定しない限り、通常は 384 Kbps が指定されています。</li> <li>• None : このリージョンと指定したリージョン間に割り当てられたビデオ コール帯域幅がない場合は、このオプション ボタンをクリックします。</li> <li>• kbps : このリージョンと指定したリージョン間にビデオ コール帯域幅を割り当てるには、このボタンをクリックします。これらの 2 つのリージョン間で各ビデオ コールに使用できる帯域幅を入力します。有効値の範囲は 1 ~ 8128 です。</li> </ul>

コールストリームあたりの全使用帯域幅は、オーディオコーデックのタイプ、およびデータパケットのサイズとオーバーヘッド（パケットヘッダーサイズ）などの要素によって決まります。表 7-2 に表示されている帯域幅の数字は、30-ms データパケットに適用され、IP ヘッダーを含みます。各コールは、2つのコールストリームから構成されています。



(注)

表 7-2 に示したコーデックは、コールごとに使用される帯域幅の概算値を示しています。各コーデックの帯域幅使用については、Cisco CallManager の現在のリリースの『Cisco IP ビデオテレフォニーソリューションネットワークデザイン (SRND)』を参照してください。

表 7-2 オーディオコーデックが使用する帯域幅

オーディオコーデック	30 ms データパケットで各コールが消費する帯域幅 (IP ヘッダーを含む)	説明
G0.711	80 kbps	このコーデックは、すべての Cisco CallManager コールのデフォルトコーデックです。
G0.722	80 kbps	通常、ビデオエンドポイントがこのコーデックを使用します。
G0.723	24 kbps	この低ビットレートコーデックは、旧 Cisco IP Phone モデル 12 SP Series および Cisco IP Phone モデル 30 VIP で使用するためにサポートされています。
G0.728	16 kbps	この低ビットレートコーデックをサポートするビデオエンドポイント。
G.729	24 kbps	この低ビットレートコーデックは、Cisco IP Phone 7900 モデルで使用するためにサポートされています。
Wideband	272 kbps	この高品質で広帯域幅のオーディオコーデックは、Cisco IP Phone 7900 モデルによってサポートされている、IP Phone 間コールで使用するためにサポートされています。
GSM	29 kbps	Global System for Mobile Communications (GSM) コーデック。このコーデックを使用して、GSM ワイヤレス受話器用の MNET システムが Cisco CallManager と相互作用できるようになります。



## リージョンの削除

Cisco CallManager データベースからリージョンを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に



(注)

デバイス プールが使用しているリージョンは削除できません。

リージョンを使用しているデバイス プールを検索するには、Region Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスにある **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。

Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示され、Dependency Records を使用可能にするための操作が示されます。このメッセージには、Dependency Records 機能によって CPU に高い負荷がかかることも表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。

使用中のリージョンを削除しようとする、Cisco CallManager にエラー メッセージが表示されます。現在使用中のリージョンを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- 別のリージョンを使用するように、デバイス プールを更新する。P.9-4 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- 削除するリージョンを使用しているデバイス プールを削除する。P.9-8 の「[デバイス プールの削除](#)」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** P.7-2 の「[リージョンの検索](#)」の手順を使用して、リージョンを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するリージョンを選択します。
- ステップ 3** ウィンドウ右上のツールバーに表示されている **Delete Selected Item** アイコンをクリックして（または、ウィンドウの一番下に表示されている **Delete Selected** ボタンをクリックして）、リージョンを削除します。



ヒント

Region Configuration ウィンドウに、Items per page ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数（25、50、100、150、200、または 250 の設定済みリージョン）を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco CallManager の性能が低下する可能性があります。

### 追加情報

P.7-10 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [リージョンの設定 \(P.7-1\)](#)
- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの設定 \(P.7-4\)](#)
- [リージョンの設定値 \(P.7-7\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.7-9\)](#)